

2013年5月15日

岐阜県知事 古田 肇 様

木曽川水系連絡導水路、長良川河口堰及び内ヶ谷ダムに関する要請

長良川市民学習会
板取川自然探索・山童
NPO法人ギンブナの会
河口堰に反対し長良川を守る岐阜県民の会
長良川河口堰建設に反対する会・岐阜
長良川水系・水を守る会

貴職の日頃の河川行政推進のご努力に敬意を表します。

私たちは長良川を愛し、長良川の環境と歴史に育まれた宝を保全し次世代に残そうと活動を進める流域の市民団体です。

岐阜県は「清流の国ぎふ」づくりを基本に据え施策をすすめようとしています。しかし、木曽川水系導水路建設、長良川河口堰運用、内ヶ谷ダム建設をめぐって進められている施策は「清流の国」づくりと全く反するものです。

長良川に徳山ダムの水を流す木曽川水系連絡導水路事業は現在「凍結」扱いとなっており、県民への事業説明も中断したままとなっています。岐阜県が示した環境影響の疑問に対する国からの回答も明らかにされていません。時間が経過する中で本事業への投資はますます無駄であることは明らかになっています。貴職は本工事着手前に速やかに事業中止を求めるべきです。

運用以来18年を経過した長良川河口堰は長良川の環境に深刻なダメージを与えています。とりわけ岐阜県のシンボルともいえるアユは危機的な状況にあり、漁業関係者からの堰開門を望む声は大きく広がっています。愛知県では堰開門を想定した調査の検討が進んでいます。岐阜県はこうした中で「塩害の危惧」を理由に閉ざされたままの河口堰を追認し滅びゆく「清流」の現実に目を背けています。清流長良川を取り戻すために河口堰開門はどうしても必要なものです。「塩害の危惧」は開門調査によってこそ解明されます。貴職の河口堰開門調査に向けた尽力を要請します。

そもそも、長良川河口堰も徳山ダムも名古屋市など下流大都市部に大量の都市用水を供給するために計画された水資源施設です。「水余り」の実態を無視して強行されたこれらの施設に利水価値を生み出しようもなく、生み出したのは河川環境の悪化と財政悪化そしてその失敗を糊塗するためにつくられた更なる無駄な事業「導水路計画」でした。ムダにムダを重ね、県民の宝である自然豊かな山と川を蝕む愚行はもう終わりにしてください。

岐阜県は今年度予算において、内ヶ谷ダム建設事業に11億5300万円の事業費を計

上し、平成27年度本体工事着手のための転流工の着手を明らかにして事業のピッチを上げています。

長良川上流に建設中の内ヶ谷ダムは再検証ダムとして、2010年から検証に付されましたが、設置された「検討の場」は、「結論ありき」の議論に終始しました。県民からは自然豊かな溪谷の破壊に反対する声、治水の効果に疑問の意見、厳しい県財政のもとでの巨額な事業費支出の心配などが多く寄せられました。私たちは、事業推進の立場だけでなく批判する専門家を入れた検討会の開催や県民参加の議論の場を求め「一時踏みとどまって事業を検討する」ことを要請してきました。この度の予算では県支出5億2490万円が計上されましたが、これは全額県債で次世代に負担がまわされます。次世代に残さなければならぬかけがいのない内ヶ谷の自然環境を破壊して、次世代に借金をつくまわすという恥ずかしい行為は認められません。貴職に事業を一時中止し再検証することを求めます。

私たちは「清流の国ぎふ」づくりにふさわしい県土づくりを求めて以下の要請をいたします。

記

1. 木曾川水系連絡導水路事業の速やかな中止を国・事業者に要請すること。
2. 長良川河口堰の開門調査に向けた施策をはじめること。
3. 内ヶ谷ダム建設事業は一時中止し、県民に開かれたもとで検証をすること。
4. 貴職と私ども流域市民6団体が「清流の国」づくりをテーマとして意見交換する場を設けること。

以上。